

### 3月のねらい及び今月の各クラスの自己評価・自己評価を踏まえての改善点・保護者と地域への子育て支援

月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学、進級への期待を感じ、園生活を充実させながら過ごす。(身の回りのことを自分で行おうとする。異年齢児と意欲的に遊ぶ。)</li> <li>・春の訪れを感じ、身近な自然の変化に興味関心を持つ。(たんぽぽやつくしなど春の草花を探す。)</li> </ul>
-------	---

クラス名	年長児(さくら組)	年中児(うめ組)	年少児(たんぽぽ組)
自己評価	2、3日ではあったが、全員が小さい子と交流を持てる場を設ける事が出来、子ども達も納得&満足していた様子が伺えた。又、異年齢との交流を経て、異年齢をより意識し、友だちとの会話も広がる姿が嬉しく思う。	お別れ会に向けた活動を通して、次年度への期待を膨らませて意欲的に活動する姿が見られた。装飾製作、司会進行の役割があることを喜んでた。友達と協力する場面が増える中で団結力が高まっていた。積極的に役割を誘い掛ける中で、自分の得意なことを中心として主体的に動き出す前向きな姿を増やす事が出来た。	異年齢交流を取り入れていった。年長・年中児との関わりでは憧れを持ち、未満児との関わりでは大きくなった喜びを感じながら、手本となろうとする姿が見られた。また、お別れ会や修園式を通して、進級への期待が高まり、様々な活動への意欲につながっている。
自己評価を踏まえての改善点	進学に期待を持ち、過ごす日々であったが、卒園の不安のほうが多い子が多く、甘えたい思い、保育教諭や友達への執着が見えていた。その思いを受け止めたり、進学の期待を持てるような声掛けや関わり、絵本等での導入を行う事で、より楽しみに1日1日を過ごせる様にしていった。	行事に向かう前向きさ、楽しみながら挑戦できる発想力の豊かさを伸ばせるように、アイデアを形に出来るような援助と環境設定を引き続き心掛けていきたい。	新しい環境への期待や不安が見られる。自信をもって進級できるよう、一人一人との触れ合いの時間を大切にしながら、思いに寄り添っていく。
保護者と地域への子育て支援	保護者と共に子ども達の成長を喜び合い、親子共々安心して入学を迎えられるようにしていく。	伸びてきた前向きな姿を共に喜ぶ関わりの中で、現状を受け止め、今必要としている援助を前向きに考え、連携しながら育ちをサポートしていく。	1年間の成長を振り返り、家庭と共有していく。進級に向けての不安や疑問に丁寧にこたえていく。
クラス名	2歳児(すみれ組)	1歳児(ふたば組)	0歳児(つぼみ組)
自己評価	・色々なクラスと一緒に、散歩やリズム運動をする活動を取り入れたことで、進級するという意識をより強くもった子どもが多かった。自信をもって活動したことで、また次の活動も意欲的に行動する姿も見られた。お別れ会では、すみれ組の子ども達らしさが存分に出す事が出来、とても楽しめた。	異年齢交流として5歳児が数名ずつお世話をしに来てくれた。一緒に遊ぶことや戸外散歩に出掛ける事を喜び、お部屋に戻ってしまう事を伝えると寂しいそうにする姿が見られた。	新入園児が2人入りまた雰囲気少し変わってくる。在園児がさまざまな感情を表に出せるようになり、新入園児にやきもちをやき泣き崩れることもあるが、「あなたの子ともしっかり見てるよ」「傍にいるよ」と声だけでなく、目でも知らせていく事で、安心して過ごしていく事が出来た。
自己評価を踏まえての改善点	・クラス全体のまとまりがようやく出てきたと感じる。成長したからこそのトラブルも見られるため、その都度こどもに寄り添い、ゆっくりと時間をかけて気持ちを伝え合えるように関わって解決していく。	1つお兄さん、お姉さんになることを少しずつ理解している姿もあった。その姿を認め、進級への喜びや不安等様々な気持ちを受け取めながら過ごしていきたいと思う。	年長児にたくさんお世話をしてもらった経験から、友達のお世話にも興味を示す姿も。お世話をしたい子、自分の事に興味が出てきた子とそれぞれの心が成長しているため、トラブルになる子ともあるが、お互いの気持ちを受け止め、お互いが楽しくやり取りできるように関わっていく。
保護者と地域への子育て支援	・一年を振り返り、成長した姿を知らせることで家庭と一緒に喜び合う。	・進級に向けての持ち帰りなどを事前にお知らせしておく。 ・保護者へ1年間の感謝の気持ちを伝えると共に、一人一人の成長を共有し、見守っていく。□ □ □	1年を通しての成長を振り返り、家庭と共に喜びを感じ、進級に向けて、環境の変化はあるが安心して過ごせるようにしていく。